

事務事業名		送水管更新事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり				担当組織	担当部	水道局	担当課	工務課
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり				担当係	建設係	担当課長名	大澤 信夫	
	施策	4 安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 水道事業の安定した経営				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
		水道事業				市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		一部委託		
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	10年度～27年度		根拠法令 条例等	事業区分		事業分類		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
大橋浄水場より堀米配水場までの既設送水管は、昭和42年に布設した鑄鉄管であり、老朽化が進んでおります。また、送水量の確保及び耐震化の向上のために、管径をアップし合わせて耐震化の優れた管渠に布設替えを進めております。			送水管更新工事 L=157.4m (工期 H26.9~H27.1)							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			年度施工延長	m	218	157	130			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
大橋浄水場より堀米配水場までの既設送水管(鑄鉄管)			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			老朽化した送水管	m	255	98	0			
目的										
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
老朽化した鑄鉄管をNS管に布設替えし、耐震性を確保する。また、管径を大きくすることにより送水量を増加できる。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			送水管整備率(整備済の延長/送水管総延長)×100	%	93.1	97.4	100			
			※送水管総延長 L=3,709m							
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
健全な経営がされている。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			有収率	%	85.99	83.59	85.63			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)		
	国庫支出金	千円							
	県支出金	千円							
	地方債	千円	34,800	32,800	119,700				
	その他	千円		700					
	一般会計	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	3,704	185	13,334				
	事業費計(A)	千円	38,504	33,685	133,034	0	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目
		委託料	3,654	工事請負費	33,685	工事請負費	133,034		
		工事請負費	34,850						
人件	正規職員従事人数	人	1	1	1				
のべ業務時間	時間	720	720	720					
人件費計(B)	千円	2,802	2,838	2,838	0	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円	41,306	36,523	135,872	0	0			

事務事業名	送水管更新事業	担当部	水道局	担当課	工務課	担当係	建設係
-------	---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成10年度から大橋浄水場のポンプの送水量低下が見られたことにより、送水量を確保するために、事業開始をした。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国において耐震化を急ぐよう指導があった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	管径をアップして送水量を増加し、耐震性のある管渠に布設替することは、安全で安定した水を供給することになる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	水道法第6条第2項により、水道事業は原則として市町村が経営するものとしている。このことから、公共関与の妥当性が認められる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	安定供給を継続するために、必要である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	工事のコスト削減は考慮しているが、事業の縮減はできない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	調査設計は、委託しており余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	水道事業は、水道料金収入にて賄われている事業であり、水道利用者には公平公正な負担となっている。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
大橋浄水場より堀米配水池までの、約3,709mの管路をすべて耐震性のあるNS管に布施替えをした時点。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			